

かながわ子ども教室

ニ ュ ー ス 第92号

「ねんりんピックかながわ2022」に参加して

NPO 法人かながわ子ども教室 眞鍋 千秋

厚生労働省、神奈川県、長寿社会開発センターが主催する「ねんりんピックかながわ2022」に参加しました。全国健康福祉祭（愛称；ねんりんピック）は、60歳以上の高齢者を中心に、スポーツ、文化種目、健康・福祉に関するイベントを通じて、ふれあいと活力ある長寿社会の形成に寄与する目的で昭和63年（1988年）から毎年開催されている祭典です。しかし、残念ながら令和2年（2020年）に岐阜県で開催が予定されていた第34回はコロナ禍の影響で開催が見送られ、昨年も同様の理由で中止となってしまいました。そして今年、3年ぶりに神奈川県で第34回として開催の運びとなりました。

今回の「ねんりんピックかながわ2022」は“神奈川に咲かせ長寿のいい笑顔”をテーマに、きんたろうをマスコットキャラクターとして、山下公園、大榎橋ホール、横浜産貿ホール、神奈川県民ホールなどを会場に開催されました。

かながわ子ども教室としては2008年の鹿児島大会に初参加して以来連続で13回目になり、11月12日（土）・13日（日）の2日間「おもしろ科学実験教室」を出展しました。

我々子ども教室の会場は、氷川丸とマリインタワーにはさまれた山下公園の一角に用意されました。

参加者は「かながわ子ども教室」から初日20名、2日目19名、共催参加された「きらめきライフ多摩」から6名が参加されました。

出展内容は①電気（うちわによる人力発電、レモンを使った化学電池、水を電気分解する燃料電池、白熱電球とLED電球を点灯させるのに必要な電力の比較、磁石とコイルによる発電とモーターのしくみ）、②空気（風船に針を刺しても割れない理由、ゴムマット吸盤による空気の重さ体験）、③光学（合わせ鏡によるものの見え方、応用としての万華鏡、偏光を使ったセロテープステンドグラス）の3教室、および「きらめきライフ多摩」によるこども水族館（魚型タレピンを使った浮沈子工作と体験）の計4教室でした





電気

空気



光学

こども水族館

風船に針を刺しても割れなかった衝撃、レモンで電気が発生する不思議、一枚ずつでは相手の顔が見えているのに2枚重ねると、全く見えなくなってしまう驚き、狭くした合わせ鏡に自分の顔が無数に映った時の感動・・・初めての不思議体験に子どもたちは声を上げて驚き、次の瞬間その顔にふっと笑みが浮かびました

・・・子どもたちのそういう姿をたくさん見せてもらいました。彼らはその不思議をずっと覚えていてくれるだろうと思います。

偏光の理屈は本当に難しいです。セロテープに偏光を通すと色が見えるのは、「セロテープの厚みの違いから通過してくる光が屈折しているから」と答えましたが、実際には単純な屈折ではなく、複屈折というものの影響によるらしいのです。セロテープの持つ“複屈折の性質”と、“偏光”という光のもう一つの性質をうまく組み合わせて起きる現象ということになります。

子どもたちに現象をわかりやすく教えるために、もっと勉強しなくてはならない、と切に感じます。

従来のねんりんピックは3日間の開催でしたが、今回は初めて2日間の開催でした。

12日(土)は小春日和で穏やかな1日でした。隣のバラ園のバラや、舗道の銀杏の落ち葉が太陽に光っていました。13日(日)は寒冷前線の接近で風も強く、テーブル上の資料が時々風に飛ばされました。午後には雲行きが怪しくなってきて時折小雨も降ってきました。

そんな2日間の来場者数は初日が、子ども518名、保護者491名(計1009名)

2日目は、子ども475名、保護者445名(計920名)

2日間の合計で1929名でした。2000名に少し届きませんでした。

2日目も天気ももっと良ければ2000名は越えられたのに！

「きらめきライフ多摩」の水族館には2日間で1370名の親子が訪れたそうです。なお、「きらめきライフ多摩」は本年限りでNPOとしての活動を終えるということで、今回が最後の共催となりました。今後一緒にやる機会はなさそうです。少し寂しいです。



会期中、中区の本町小学校キッズの親子、中区のボーイスカウトの親子、聞きそびれてしまいましたが、子どもさんがキッズに通っているというお母さん、みなさんできればキッズで教室をやってもらいたいとの希望があり、その方たちには教室のパンフレットを差し上げました。また、事前に配布したチラシを見て来場してくれた、神奈川区の青木小学校の親子、青葉区の黒須田小学校の親子、茅ヶ崎のどんぐりクラブの親子、YMCA 中央の親子もいらっしゃいました

来賓の方々

- 12日：長寿:社会開発センター：薬師寺部長、吉田様
ダイヤ財団：森 義博部長、佐藤 博志次長
13日：神奈川県：小坂橋聡士副知事（光学教室を体験）
長寿:社会開発センター：薬師寺部長
ダイヤ財団：佐藤一三常務理事（こども水族館教室を体験）

かながわ子ども教室/ダイヤかながわ交流会からの見学者

- 12日：田中さん、廣岡さん、田納さん
13日：故・鳥居理事長の奥様、竹村さんご夫妻

今後の、ねんりんピック開催予定

令和5年 愛媛県、令和6年 鳥取県、令和7年 岐阜県、令和8年 埼玉県

県との折衝に尽力していただいた松下さん、配布チラシの準備をしていただいた小島さんと大田さん、昼食を手配していただいた平林さん、実験道具を準備していただいた先生方、子どもたちに丁寧な説明をしてくださったサポーターのみなさん 本当にお疲れさまでした。

かながわ子ども教室

松下 恵造

新型コロナウイルスの第7波の感染者数は10月に入ってボトムとなりましたが、第8波の増加が始まってしまいました。しかし、子ども教室の活動は、ウィズ・コロナの考え方で教室開催先と共に感染防止に配慮をして、大きな問題なく実施されています。

9月に報告しました教室開催の実績／予定の見込み回数は96回でしたが、12月15日までの開催実績は78回となり、3月末までの開催予定数40回を加えると118回の見込みとなります。本年度の教室開催計画では、新型コロナウイルスの感染が下期から平常に戻ると想定して、年間114回程度の開催を目途としましたが、感染の状況は想定とは異なるものの、目途の回数を超える見込みとなりました。

本年度参加予定の2大フェスタの1つである「ねんりんピックかながわ2022」協賛イベントは、予定通り11月12日～13日に山下公園・おまつり広場にて開催され、本号の眞鍋会員からの報告にありますように、当方「おもしろ科学実験教室」のブースには約2000人の親子が来場され、無事終了することができました。あと1つは「川崎市青少年フェスティバル(3月)」ですが、川崎市からの連絡では「本年度のテーマがタイムトラベル(昔の遊び／未来を感じる遊び)」とのことで、参加は要請されないことになりました。川崎市青少年フェスティバルは、2009年度の初参加以来、2010年度(東日本大震災)と2019年度～2020年度(コロナ感染)の開催中止はありましたが、10回連続して参加要請があったので誠に残念です。来年度の要請に期待したいところです。

新規教室の方は、「電池をつくろう」教室と「真空」教室の準備が整いました。これで、科学教室：22教室、暮らしの教室：4教室の26教室体制となりました。新規教室への開催依頼を期待したいところです。

「かながわ子ども教室」の会員数は、11月に高橋信一さんが入会されましたので40名となりました。会員の皆様には、継続して新規会員の勧誘に努めましょう。